

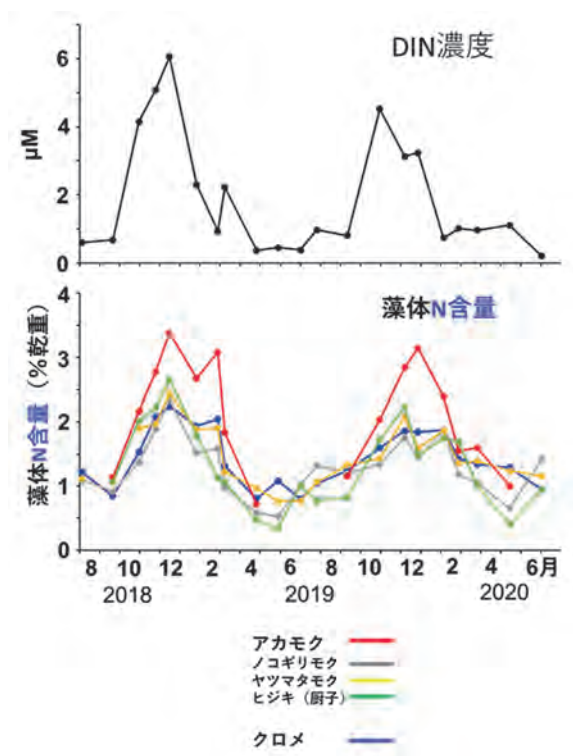


図4. 屋代島・松ヶ鼻におけるDIN濃度と主要藻場海藻（ホンダワラ類4種とクロメ）の藻体窒素含量の季節変化.

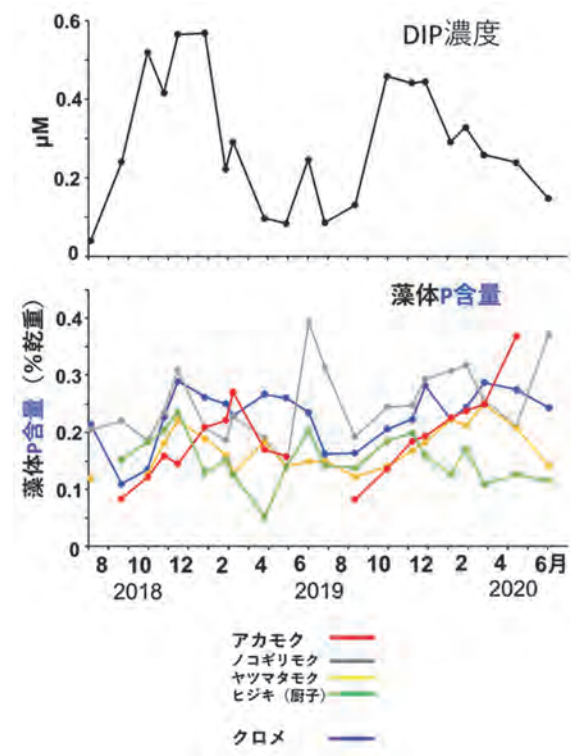


図5. 屋代島・松ヶ鼻におけるDIP濃度と主要藻場海藻（ホンダワラ類4種とクロメ）の藻体リン含量の季節変化.

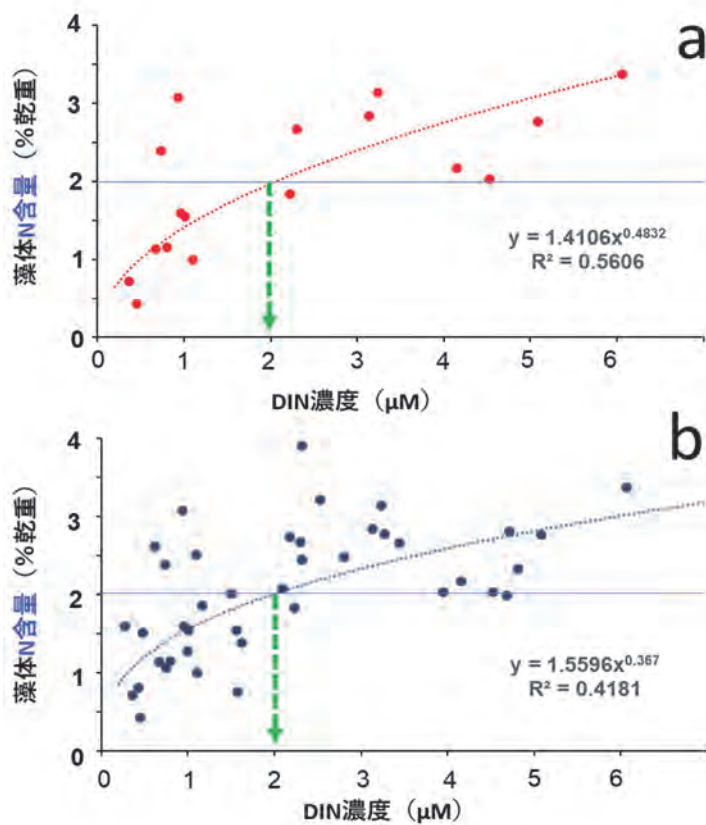


図6. 屋代島の藻場のDIN濃度とアカモク藻体窒素含量の関係.
a: 松ヶ鼻の群落の値をプロット.
b: 松ヶ鼻, 厨子, 片島の群落の値をプロット.

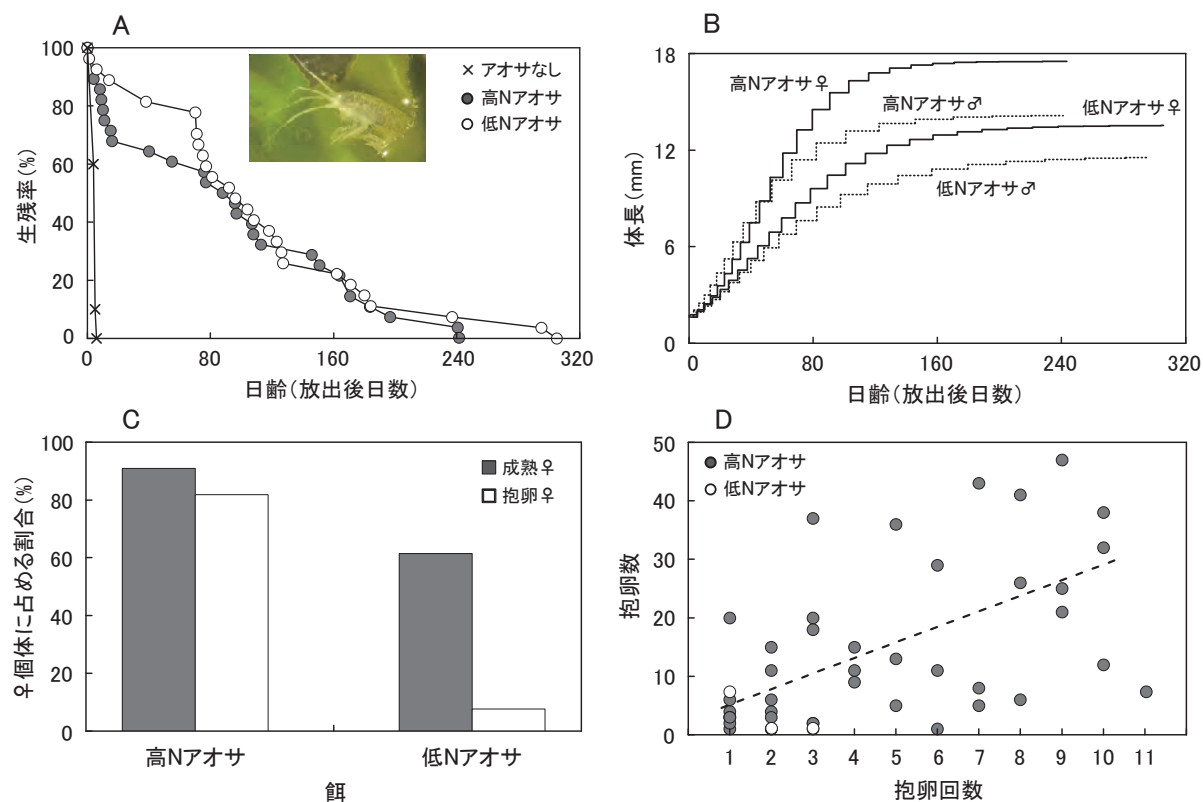


図7. 飼育した端脚類 *Ampithoe tarasovi* (図中の写真) の生残曲線 (A), 脱皮ごとの体長の伸びと脱皮間隔から計算した成長曲線 (B), 成熟♀および抱卵♀の個体数割合 (C), 抱卵数 (D). アオサなし: 無給餌の個体, 高Nアオサ: 高窒素含量のアオサを与えた個体, 低Nアオサ: 低窒素含量のアオサを与えた個体.

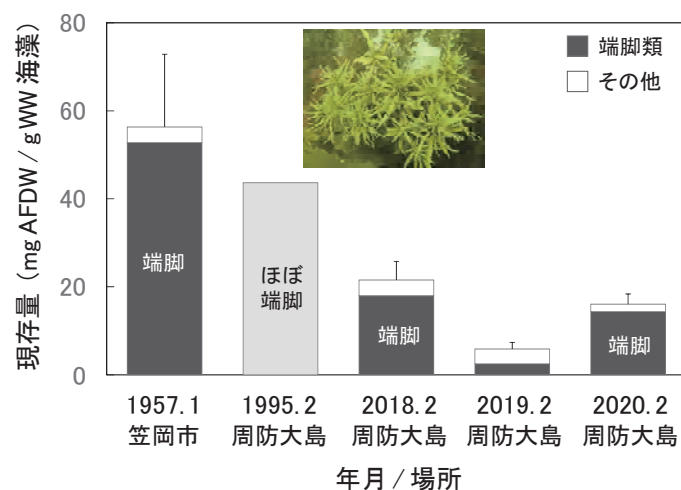


図8. 瀬戸内海におけるノコギリモク (図中の写真) の葉状動物現存量の推移. 笠岡市 (1957年1月) と周防大島 (1995年2月) の値は文献から算出. エラーバーは+SEを示す.

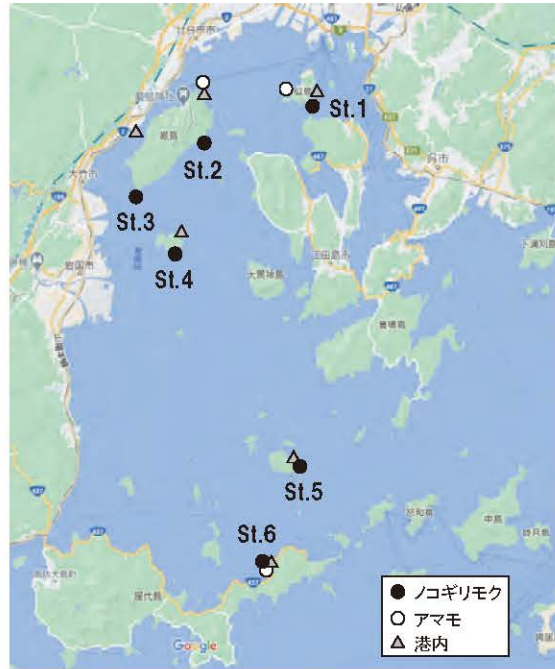


図 9．広島湾におけるノコギリモク藻場の調査定点 (St. 1～St. 5)．

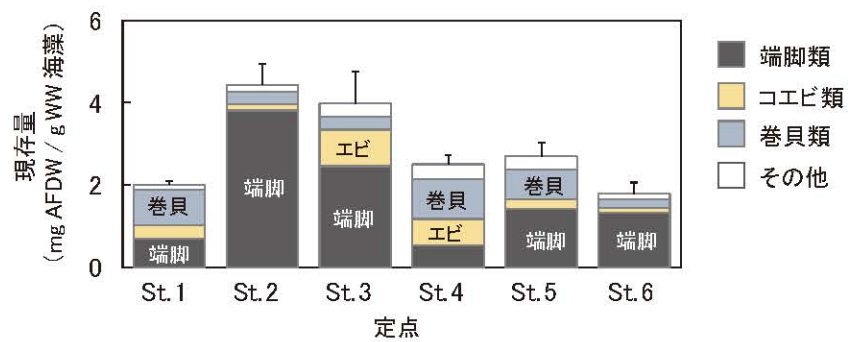


図 10．各定点におけるノコギリモクの葉状動物現存量. エラーバーは+SE を示す.

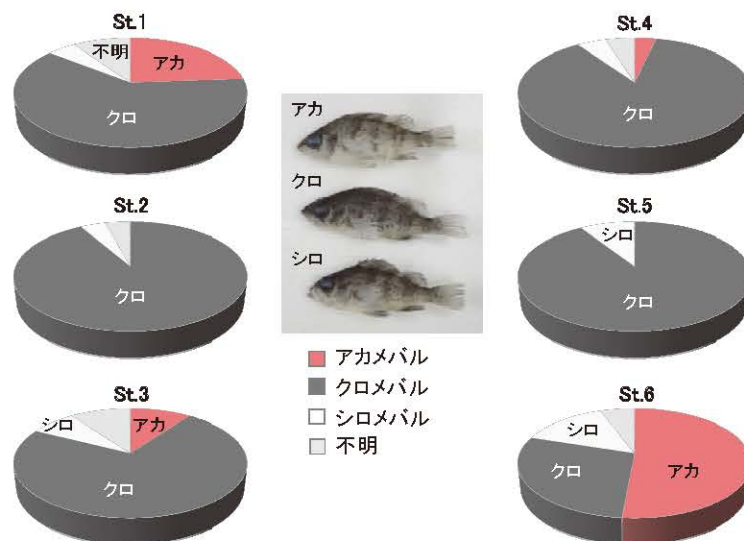


図 11．各定点で採集されたメバル属 3 種 (図中の写真) の個体数組成.